



新潟の水辺だより

Vol.36

●編集発行・新潟の水辺を考える会 ●発行日・1996年2月29日 Vol.36

TOPICS

川と地域との再構築は可能か？

1月10日、通船川をめぐって河川管理者である新潟県との意見交換を県庁2Fの講堂を借りきって行いました。県から粕谷河川課長をはじめ中村さん、高倉さん、南木さんが、通船川ネットワークから大熊、星島、浅井、井上、石月、高橋、水内、相楽がそれぞれ参加しました。通船川ワークショップなどの活動をスライドやビデオで紹介し地元には多くの意見があることをふまえて活動していること、幾つかの提案を検討したいということをお伝えしました。県側も通船川周辺は農地や住宅工場などが入り組んでおり、河川改修の難しさを指摘していました。背後の都市の発達とともに計画的な土地利用によって河川背後に緑豊かな公園空間を産み出せば理想的なんだがという意見もありました。河川審議会の答申の中に「河川と地域との再構築」という方針がありました。その意味で今回の懇談は画期的な意味を持っていました。粕谷さんや中村さんの姿勢に感謝いたします。今後とも地域住民と河川管理者との話し合いが行われることを期待します。

相楽 治

佐潟：ラムサール条約へ

2月12日、新潟市の主催する佐潟バードウォッチングに参加してきました。100人近い市民が参加していました。佐潟のラムサール条約への登録があまり市民の中で話題にならなかった感があっただけに、少しホッとしました。



冬の佐潟 (撮影：高橋 正良)

3月のオーストラリアのブリスベンで開催される第6回締約国会議で、佐潟 (SAKATA) が日本国内の10番目の登録地になります。今まで、

クツチャロ湖、霧多布湿原、原岸湖、別寒辺牛湿原、銅路湿原、ウトナイ湖 (以上、北海道)、伊豆沼、内沼 (宮城県)、谷津干潟 (千葉県)、片野鴨池 (石川県)、琵琶湖 (滋賀県) が登録されています。

佐潟は今、新潟市の都市計画佐潟公園の整備が行われ、また周辺農地からの環境汚染もジワジワと進んでいるときだけに、登録湿地になることは、佐潟の自然の保全や再生にとっては良いタイミングではないかと思われま。

さらに、ガン・カモ・ハクチョウ類にとっては蒲原平野はひとつの湿地だと思います。そこで、これを機会に鳥屋野潟、福島潟、瓢湖を含めた広域的な指定へ向けてアピールができる条件を作っていきたいと考えています。

進 直一郎

開港5都市景観会議新潟大会「港町の景観を考えるワークショップ」開催

1996年2月3～4日に開催された開港5都市景観会議 新潟大会において、「にいがた花絵プロジェクト実行委員会 (代表中矢澄子さん)」と当会とで「港町の景観を考えるワークショップ」を運営開催しました。

私は、皆さんの知恵と力をお借りしながら、運営の事務や、内容の組み立てをさせていただきました。

新潟の歴史に新潟のまちの生い立ちから勉強しなければなりません。川村奉行というのは時代劇か何かに出てくる〇〇奉行という役職名だと思ったり、榎本ケンレイの県令は名前だと思っていたりというところでもない状態から高橋編集長と私のシナリオ書は始まりました。

今回のワークショップの内容はロールプレイングゲームを中心に会場の方とディスカッションを行うというものでした。ロールプレイングゲームは3幕構成で合間に来場者に意見を頂いたり、アンケートを行ったりと言うスタイルです。

第一幕では新潟湊と新潟のまちの生い立ちや歴史的経緯を浮かび上がらせる。第二幕は現在の新潟港と新潟のまちが景

観的に抱える問題点をそれぞれの立場から訴える。



会場は大爆笑

第三幕は第二幕の問題提起に基づきより良い景観づくりのための建設的発言をする。

という組み立てで進めました。

特に第三幕ではシナリオもかっちり決めたわけではなく、出演者の皆さんが独自に考えた発言をしていただいた。会場とのやり取りも折り交ぜ、ディスカッションを進めました。議論が熱くなるあまり、役の立場ならこう考えるというのではなく、素になって意見を交えていたところも見られ、内容の濃いものとなったと思います。

来場者数も当初の予定を上回り途中イスを出すほどでした (とはいうものの50名程)。

結果として昨年11月の通船川ルネッサンスシンポジウムでのノウハウがうまく活かされたのではないかと思います。

ちなみに湊と港が使われているが、語源として、港は船の通る水路、湊は水路の集まる場所となっているようです。

開港5都市の中で唯一川湊である新潟は湊の文字がピッタリ来るような気がする。湊と港の違いにこれからのみならず町新潟という裏ワザが隠されているような気がします。

改めて出演者、スタッフ、来場者、その他応援いただいた方々に、私の力不足をお詫びするとともに、改めて感謝したいと思います。

杉山 泰彦

水辺雑感 カジカのなげき

我が輩はカジカである、名前はまだない。漢字では、鰍あるいは鮎と書く。

間違っても河鹿なんぞと書かないように。あれは不格好な水掻きをつけた細長い足でピョンピョンはね回り、間抜け面で日がな一日へろへろ鳴いて暮らしているカジカガエルという脳天気野郎だ。はっきり言って一緒にされたくないねえ。それに引きかえ、我が輩の大胆不敵にして高貴な顔立ちを見てくれ！



カジカ

俺たちは溪流の水底にへばりついて暮らしている。だから体は上下に少し平たい坐りのいい形で、浮き袋なんぞは遠の昔に失ってしまった。急流に耐えられるのは、棘の軟条も癒合して丈夫になった腹鰭を、錨のように水底の石に引っかけているからだ。

俺たちの好物は、石の上をはい回ったり、隙間に潜ったりしている川虫だ。カゲロウやカワゲラは常食だし、トビゲラの類なんぞは砂でできた巣ごと一はおぼりだ。少々こまいが、ユスリカは喉ごしもいいし味も結構いける。

信州伊那谷では、いろんな川虫を一緒にくたにしてザザムシと呼んで佃煮にして賞味しているという。人間様の中にも本物の味の分かる風流な奴がいるのは嬉しいことだ。

ところで、今俺たちの仲間が全国各地で存亡の危機に立たされている。今回、この紙面に登場したのは、俺たちが置かれている現状を人間たちに訴えたかったからだ。“水辺を考える会”のメンバーは必ずや人肌脱いでくれると期待してのことである。

このところ「川は大事だ」とか、「自然を大切にしよう」とかう話は聞くが、実際には大変な勢いで生活環境が悪くなっている。俺たちカジカは年々住処を追われ、幻の魚になってしまった川もある。その原因を列挙してみよう。

1.生活空間の分断

取水ダムや砂防ダムなどの河川横断構造物によって消息域が断ち切られることは、全ての川魚にとって個体群の存亡に関わる大問題だ。たとえ無

事に下ることができても、元の住処に戻ってくることは不可能である。例えば皆さんの住む町の中に、ベルリンの壁のような絶望的な障害物が張り巡らされたらどうだろう。構造物の数が多いと、細かく隔離された個体群は佐渡のトキのようにやがて消滅していくしかない。

それでは魚道を作ればいいのでは... という発想が出ると思う。それは結構なことだが、今、実用化されている魚道は、イワナやヤマメ・アユなどの遊泳力の強いいわゆる“有用魚種”を相手にしたもので、俺たちカジカにはクリアできない難物なのだ。

2.護岸工事による環境の単調化

コンクリート護岸などによって川岸が固められると、自然河道にあった多様な環境は消滅する。川の生き物が暮らし、個体群を維持していくには産卵・稚魚の育成・採餌・退避などのための多様な環境が存在することが不可欠だ。しかも、それらの要求は魚の種類によって異なっている。それだけの多様性を完璧に再現できる河川工法は、今のところ見当たらない。

3.砂泥の堆積による浮き石の消失

上流から大量の土砂が流されてくると、水底の石は泥かぶり状態となり、さらに隙間が埋って沈み石となる。川虫や俺たち底生魚が住む空間は消滅してしまい、ヤマメやアユなどの遊泳魚も生活できなくなるのだ。



鹿ノ俣川

上の写真は、胎内川支流の鹿ノ俣川の惨状である。かつて俺たちの仲間やヤマメ・イワナの宝庫といわれた溪流が、スキー場造成による土砂の流下と下流に作られた砂防ダムによって泥の海に沈んでしまったのだ。

人間様が生活していくには、周囲の環境に手を加えなくてはならないことは理解できる。しかし、その陰に沢山の俺たちの仲間のうめき声があることを忘れて欲しくないものだ。そして、人間様にとって金銭には替えがたい無限の価値を持った原風景が失われていくことも・・・。

カジカ代理人 井上 信夫

川のフォーラム誕生

□パソコン通信

機械工学を専攻していた私は、メカにとっても興味があります。もちろんパソコンを趣味として、仕事にプライベートに活躍させています。

家族のみんなで使おうということでアップル社のマッキントッシュを一年半前に購入し、同時にニフティサーブというパソコン通信に入会しました。料金は通信速度に応じて1分10円又は25円となっています。パソコンが電話回線につながることで自宅にいながらデータベースを検索したり、ショッピングができたり、電子メールが使えるようになり利用価値がグーンと拡大したように思います。

□川のフォーラム誕生

ニフティサーブは多くのフォーラムを有しています。パソコンはもとより趣味や実益をかねたものまで様々です。雑誌に「このソフトはNIFTY-ServeのFMACPRO5-678に登録されています。」という記事を見かけたことがありませんか？このFMACPROがフォーラムの略称で、川のフォーラムは昨年11月22日に"FRIVER"となって開設されました。このフォーラムにアクセスした時のトップメニューは下記のようになります。

<川のフォーラム> FRIVER

1:お知らせ *掲示板 3:電子会議 4:データライブラリ
5:会員情報 *リアルタイム会議 7:SYSOP宛メール 8:オプション E:終了

>3

番号 発言(未読) 最新 会議室名

- | | | | |
|---|--------|-------|--------------------------|
| 1 | 7(0) | 12/31 | [フォーラムの概要] フォーラムの概要・利用方法 |
| 2 | 476(1) | 02/11 | [自己紹介] 貴方と地域・川の関係は？ |
| 3 | 320(1) | 02/10 | [水辺の散歩道] 7/17がやがや 早稲 |
| 4 | 29(1) | 02/10 | [遊水広場] 海・川・森の遊び専科 |
| 5 | 34(34) | 02/06 | [Q & A] 何でも質問コーナー |
| 6 | 16(2) | 02/10 | [案内板] 4/16案内・連絡・募集 |
| 7 | 169(1) | 02/10 | [川づくり] 川での交流・ネットワークづくり |
| 8 | 91(4) | 02/11 | [地域づくり] 生き生き活動・地域連携 |
| 9 | 64(0) | 02/08 | [図書館] 本・雑誌・資料等の紹介 |
- >

SYSOP(システムオペレータ:フォーラムの運用を委託された人)の幸野 敏治さんは『川のフォーラム』を次のように語っています。
「各地の川・流域に住んでいる人達、そこの遊ぶ

人達、生活している人達、仕事をしている人達、川や地域に思いを持っている人達、そんないろいろな人達に集まっていたら、と思います。」
([ONLINE TODAY JAPAN, February 1996]より)

自己紹介の会議室を見ているとさまざまな川を知ることができると共に、川づくりや地域づくりに関わっているグループや会員の多さに驚かされます。



中魚沼郡津南町宮野原橋付近「ここから信濃川が始まる」(撮影:長井一義)

私たち「新潟の水辺を考える会」も川を機軸とした地域づくりのプランナーとしてさまざまな活動を実施していますが、川のフォーラムを接点に他の地域の活動を知ると共に情報交換の場として役立つのではないかと思います。パソコンやワープロをお持ちでしたらパソコン通信を始めませんか!?

□インターネット

ニフティサーブでは、富士通のインターネット接続サービス「Infoweb」と連携しニフティサーブのIDを持っていればインターネットのppp接続が可能になるサービスを始めました。

県内でも新潟大学や建設省北陸地方建設局でインターネットホームページを開設しています。「新潟の水辺を考える会」でもホームページ開設運用を希望する意見もあるので、これを機会に世界に向けて情報発信して行こうではありませんか。

P.S この原稿は電子メールで高橋編集鳥へ送りました。

長井 一義 E-Mail 【BNN00233@niftyserve.or.jp】

新津川における川づくり —水と緑のネットワーク形成を目指して—

○新津川はどんな川？

新津川は能代川の派川で、新津市大関地内で能代川から分流し、新津市街地中心部を流れ、同市下興野地内で再び能代川に合流する延長5.6Kmの一級河川です。



この川は流域の大部分が低平地であり、蛇行が激しいことから「九十九曲がり川」あるいは「暴れ川」として知られていた能代川の旧川でした。このため能代川は昔から度々氾濫し、特に昭和41年7月、42年8月の連年水害、昭和53年6月の洪水ではたび重なる大きな被害を受けました。こうした洪水から新津市街地を守るため、市街地の東側に捷水路（ショートカット）が計画され、中小河川改修事業と激甚災害対策特別緊急事業により昭和58年7月に通水しました。

この捷水路により新津市街地は大水害の危険性から解放され、平成4年には市街地の中に残された能代川の旧川を市民に親しまれるようにと「新津川」と名称を改めました。

しかし、市街地の中に残されたこの川は能代川から毎秒1.6㎡の維持用水と残流域の流入だけで水量が減少し、生活雑排水による水の汚れが目立つようになりました。さらに水位の低下により雑草が生い茂り、一般市民から忘れられた存在となり、一部の市民の間からは、この川を埋めて道路にするなどの声が聞かれるようになりました。

○川づくりの基本的な考え方

こうした状況を改善し、市街地の中に残された貴重な自然空間である新津川を街づくりに生かすため、新潟県及び新津市は市民の参加を得て、平成元年度に「能代川現川利用計画検討委員会」を発足させ、環境整備の基本計画を作成しました。河川計画の諸元及び河川環境整備基本計画の概要は次の通りです。

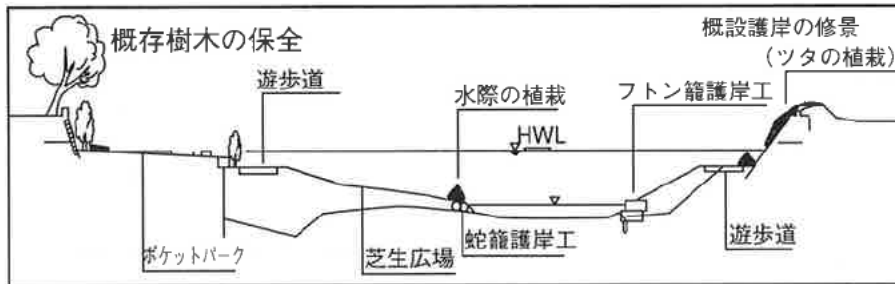
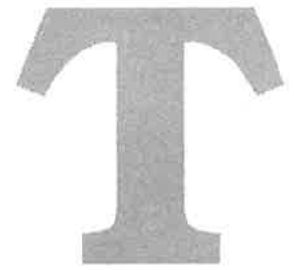
1.河川計画の諸元

- 整備延長 5.6km
- 流域面積 2.4h
- 計画規模 100年確率
- 計画高水流量 55~15m³/S
- 縦断勾配 1/3460

2.河川環境整備基本計画

- 1) 基本理念：自然に恵まれた緑のまちづくりと一体となった「市民の憩える川」としての良好な水辺空間を形成する。
- 2) 基本方針
 - ・川で結ばれたまちづくりをめざし、市民が気軽に憩えるふれあいの場の創出
 - ・ふるさと新津を思い起こさせる川づくり





新津川横断面図

- ・水と緑のネットワークの形成
 - ・河川浄化、緑地の保全整備
 - ・市民の手によって川をまもり育てること
- 3) ゾーニング：新津川の河川特性と沿川の地域特性から、次の4ゾーンに分割し、テーマを次のように設定して整備を進める。
- ・ふるさとフルーツゾーン（能代川合流点～新町大橋）「のどかな自然とやすらぎのゾーン」
 - ・にぎやかシビックゾーン（新町大橋～山先橋）「都市と文化が息づくにぎわいのゾーン」
 - ・さわやかグリーンゾーン（山先橋～鉾盛橋）「自然景観と人とのふれあいゾーン」
 - ・のんびりレトロゾーン（鉾盛橋～能代川分流点）「歴史と自然を楽しむいこいのゾーン」

○にぎやかシビックゾーンの整備と管理

このゾーン（延長約800m）は新津市街地の中心部に隣接しています。そのため、このゾーンを拠点整備区間として位置づけ、平成5年度にモデルゾーンとして重点的整備を行いました。

整備方針は、新津市のイメージテーマである「花とみどり」と石油の里」に因み、「花と緑」の川とし、基本的な考え方は次のとおりとしました。

- ・低水路を片側に寄せ、緑地空間を生み出す。
- ・低水護岸には、自然材料を使用した工法を採用する。
- ・高水護岸には、植栽が施工可能な工法を採用する。
- ・中心部には、イベント広場や親水階段を配置する。
- ・高水敷内には園路を設け、歩行動線を確保する。
- ・出来るだけ植栽をし、花期の長い草花を選定する。
- ・高水敷に花壇を設け、市民に開放する。

この区間の整備は、建設省の補助事業である「河川環境整備事業」により主に低水護岸を、新潟県単独事業である「地方特定河川等環境整備事業」により高水護岸、高水敷、遊歩道の整備及び植栽を実施することとし、平成5年7月から本格的に工事着手し、平成6年3月には概成することができました。

完成した施設については、護岸、堤防などの河川管理施設は新潟県が管理し、遊歩道、便利施設その他の施設及び植栽については新津市に引き継ぎ、沿川自治会の協力を得て管理しています。

○これからの展開

平成5年度に整備した区間の上流「さわやかグリーンゾーン」については、平成5年度から「ふるさとづくり河川事業」として着手しており、平成8年度末には完了する予定です。他の2ゾーンについても平成7年度から着手し、順次整備を進めています。

水質（BOD）については、平成6年度75%値は下流部で5.5であり、都市河川として極端に汚れている訳ではありません。しかし、上流の能代川の分流点上流では3.1であり、新津川への雑排水などで汚染が進んでいることが分かっています。流域では下水道整備が進んでおり、今後水質が改善されるのではないかと期待しています。河川としても水性植物などによる自浄作用の改善にも取り組むこととしています。

また、本川である能代川の高水敷整備も同時に進めており、さらには新津市の進めている「水と緑のネットワーク」構想との連携を図り、新津市の顔として市民に親しまれる川づくりを目指しています。

田辺 敏夫（新潟県新津土木事務所）

ヤゴ

トンボの幼虫をなぜ「ヤゴ」と呼ぶのかよく分からない。因に漢字では「ヤ」は「水」で「ゴ」は「萬」の下に「虫」と書く。(とてもワープロでは書けない)

いずれ漢字は後に宛てたものであろうが、感じのせている漢字ではある。「ポーフラ」のことを「蚊のヤゴ」とは言わないので偽念。

今、彼等のほとんどは泥の中や、水性植物の根元などで採餌し、脱皮を繰り返している。

ヤンマのような大型のものはそうでもないが、イトトンボ類のヤゴを真冬に採取して観察するの



オオモノサシトンボなどのヤゴたち

は大変で骨が折れる。かなり土中深く潜り込んでいるのか、植物の組織の中にひそんでいるのかもしれない。

石月 升

アクアリウムと帰化水草

最近では水槽の中で水草や熱帯魚を飼うアクアリウムがはやっている。これにともなって、新顔の帰化水草が増えてきているという。例えば、ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア)、ハナガガブタ(バナナプラント)などが、野生化して広がりつつあるという。

新潟県でも、フサジュンサイ(カボンバ、キンギョモ)などが帰化している。じゅんさい池などはこれがびっしりと密生している。これも観賞用として栽培していたものが逃げ出したものである。

アクアリウム用の水草には、熱帯産のものばかりでなく、温帯産のものも多い。熱帯産の水草は日本では冬越しが困難であるが、温帯産の水草はどの種も逃げ出して広がっていてもお



フサジュンサイ

しくない。

アクアリウムプラントが、日本の水草の生態を狂わさないよう、水草を不用意に捨てないなど、注意しなければならない。

笹原 治

ハクチョウ

1996年1月15日のガンカモ一斉調査によれば15,101羽のハクチョウが新潟県内で確認された。一口にハクチョウと言ってもオオハクチョウやコハクチョウ、コブハクチョウの三種類がいる。コブハクチョウは飼われていたものが野生化したものが多い。オオハク1,253に対してコハク13,839と圧倒的にコハクチョウが多いのが特徴だ。新潟市の佐潟や水原町の瓢湖などでは、餌を与える人間の近くにやってくる。間近に見ることができるのは、オオハクが多い。遠くで毅然としているのは主にコハクである。容姿端麗で「武士は食わねど高楊枝」のコハクチョウに



佐潟の青空を飛ぶコハクチョウ

人気の軍配は上がるようだ。

高橋 正良

花絵プロジェクト・コメント

神戸や横浜、長崎、函館といった港で有名な都市と新潟が同等の立場であることの嬉しさと恥ずかしさを痛切に感じました。また私たちチューリップ軍団は、寸劇（ロールプレイングゲーム）という場を借りて、私たちのテーマを発表できて良かったと思います。一般の人達にもっと参加してもらいたかった。

小柳 行弘 カモメ役

今までまちづくりにはほとんど関心を持っていなかったが、この会議に参加して、自分達のまちを考えるきっかけになった。

鈴木 久美 衣装担当
岩下 枝美子 イザベラ・バード役

普段、港から街を見る機会がないので、街を眺めることのできるポイントづくりをしてはどうか。街の中に緑や花がないことを改めて再認識した。

中山 まり チューリップ役

五港会議開催に向けての打ち合わせで、街の景観づくりには欠かすことのできない「緑や花」のモチーフが語られなかったので、力のない私達の会でしたが、どうしても取り上げたいテーマでしたので、水辺の会の方々のお力をお借りしての参加になりました。水辺の会さんにリードして頂いて自分達のテーマを発表し、参加して下さった皆さんにも考えていただけてことは大きな喜びでした。

また、私達の会ではほとんどの者が、自分達はまちづくりに関わっているといった考えを持たないままに、花絵づくりに魅了されて参加しています。その人達が、今回の分科会参加で、自分達もまちづくりの一員なのだという考えを持ってくれたことも大きな収穫でした。

そして、何より、水辺の会の皆さんが楽しく物事に取り組んでいかれている姿勢、チームワークの良さ、段取りの良さ、常に勉強しながらしっかりした裏付けの上での行動力、全てが、私には大変勉強になりました。また是非御一緒したいと思っております。ありがとうございました。

中矢 澄子 舞台監督

ぼくの「不良化宣言」

小船井 秀一

去年は、はっきり言ってひどい年だった。職場では、とてもここでは言えないようなとんでもない事件が発生して、対策に追わされればなしで、結局一年中なんにもできない状態だった。「風だるま」で書いている「水紀行」の取材すらおぼつかない状態で、もううんざり。正直言って、疲れた。

だから、今年はどうよけいなことはなんにもしない、と決めた。お客さんに迷惑のかからない範囲で、有休を取りまくり、職場には居着かないことにした。それで、去年にできなかったことを、いろいろやっちゃうだもね。

まずは、「水紀行」の取材に精を出そう。村松町の溜め池や、大潟町・頸城村あたりの潟湖、県内各地の数多くの清流……。見てみたいところがたくさん残っているし。数は少ないけど、水紀行を楽しみにしてくれている人もいろいろいるから、今年は気合いを入れて取材しなきゃ。

それから、この夏は、以前からやりたいと思っていた「阿賀野川で泳ぐ」ってのも実現するぞ。物好きな仲間たちと一緒に、阿賀野川の水を体中で感じるってのはきつと楽しいぞ。やっぱり、川は泳いでみなきゃその真価はわからないからね。

ついでに、前によくやっていた、河原でのヤキトリ・バーベキュー大会を、またみんなでやりたいな。五月の連休とか、秋の盛りの時期に、みんなでわいわいビールでも飲みながらさ。場所は、そうだな、阿賀野川河川敷公園がポピュラーだけど、たまには山のほうでもいいなあ。

音楽もやりたいな。水辺の会音楽担当の森本さんあたりと組んで、水辺の会のオリジナル曲を作って、みんなの前で発表しちゃったり、みんなで大合唱したりして（森本さん、これは結構マジなんで、これ読んでいたらよろしく願います）。

まだまだほかにもやりたいことだらけなんだけど、しかし、実際問題、どれだけ実現できることやら。本当は自分でも自信はないんだけど。ともかく、こうして宣言したからには、なんとか実現させたいな、と思っはいます。皆さん、何かおもしろいことがあったら、ぜひ僕に声をかけてくださいな。



戸枝 邦子



入会をきっかけに「水辺」というものを見る角度が変わり、認識を新たにしました。私も心も時を重ねることに自由で逞しく、そしてやさしい自然児のようになれたらと思っています。



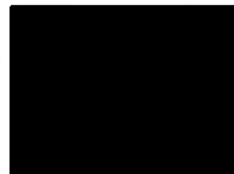
山賀 哲夫



東蒲地方の水と水辺はおまかせ下さい。と言いたいのですが、心配な事ばかりです。皆様のお知恵をぜひ拝借！よろしくお願いします。



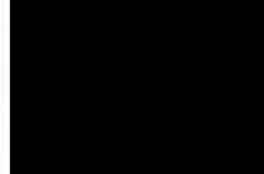
福田 晴耕



昨年4月より長岡市に在住。新潟は初めてですので、歴史、文化、人情、酒といろいろ勉強したいと思っています。出身は北海道ですが盛岡、仙台、東京、奈良、大阪、名護（沖縄）と歩き回っています。



大崎 信子



公民館に異動してきて3年目。通船川の事業では、水辺の会にお世話になっています。生まれも育ちも沼垂。通っていた小学校の前には古信濃川が流れ、蛍もいました。そんな風景が今懐かしく思い出します。



山田 洋子



新潟に住んで通算で35年になります。趣味は陶芸です。あやしげな壺などを造っています。新潟の堀が消え、建物が消え、そして自然も人情まで消えようとしています。でもまだ今ならまにあう。子供達に自然や人情やいいものを沢山のこしたい。そんで思いで一杯です。

会員紹介原稿募集

写真
or
似顔絵

氏 名

郵便番号
住所
連絡先
電話番号
Fax

新しい会員の方から順にご紹介していきます。写真や似顔絵とご連絡先を事務局の森本 利まで、お願いいたします。

新津川ウォッチング

- 日 時 1996年3月24日(日) 午前9:00~午後2:00
- 集合場所 東地区公民館玄関前集合 (午前9:00)
- 場 所 都市型河川改修をしつつある新津川
- 内 容 昆虫/鳥/水辺の観察/講師:新津土木事務所河川課 田辺敏夫さん/
定員:50人(小学生歓迎) /おにぎり持参/参加費:大人500円 小学生300円
申込:東地区公民館 (025-241-4119)
- 主 催 通船川ネットワーク (新潟市東地区公民館、通船川ルネッサンス21、
新潟の水辺を考える会)

地球環境保全とNGO活動の役割について

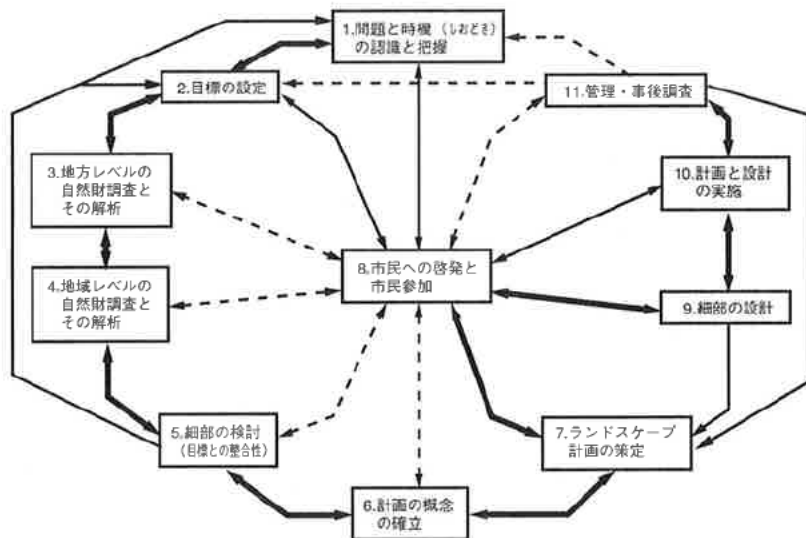
3月16日に開かれるシンポジウムについて述べたいことを事前にお知らせします。私たちの日常ではとらえられない地球環境を私たちの身近な水辺環境という視点でとらえたい。そこでは人間の価値観による自然との関わりがあり、そのせいで自然環境はひどく痛んでいます。どこでバランスをとるか?簡単な答えがなかなか見えてきません。環境の荒廃を嘆き非難するのは容易だが市民には環境に関わり (in)、考え (about)、行動する (for) 多様な人がいる。そのための行動や仕組みや資金づくりには困難がつきまとう。

- 1.環境保全の何が問題で何を急ぐべきか?
- 2.保全は保存か、補償か、代替か?
- 3.保全の政策的、社会的、経済的、技術的可能性は?

- 4.計画の確立に市民的合意は?情報の公開
- 5.市民参加の可能性は?誰にも分かりやすいシミュレーション、ワークショップの導入は?
- 6.環境保全、環境改善への市民参加の行動計画(アクションプログラム)は?

誰が環境問題を市民に伝え、誰が環境保全のプログラムを市民とともに実践し、誰がその成果を総括してゆくか。これらの課題に一つずつ関わり、考え、汗をかきながら答えを見つけ出して行くことからしか地方のNGOの役割は見えてこないのではないだろうかと考えます。今後NGOが社会的に大きな役割をもちうるには常に環境問題に関わり、啓発や情報収集発信などの調整や企画をする専従のスタッフの存在が鍵となるでしょう。

相楽 治



生態学的環境計画のモデル (F.スタイナー, 1991年による)
図は桜井 善雄信州大学名誉教授:応用生態学の今日的課題. 第2回建設技術センター, 1993東京より引用

EVENT & BOOK

イベント情報

1 新津川ウォッチング

日 時 ● 1996年3月24日(日) 午前9:00～午後2:00 東地区公民館玄関前集合(午前9:00)
場 所 ● 都市型河川改修をしつつある新津川
内 容 ● 鳥/水辺の観察/講師:新津土木事務所河川課 田辺敏夫さん/定員:50人(小学生歓迎)/
おにぎり持参/参加費:大人500円/小学生300円/申込:東地区公民館(025-241-4119)
主 催 ● 通船ネットワーク(新潟市東地区公民館、通船川ネットワーク21、茶室の水辺を考える会)

3 第1回全国茅葺き初ワケ・ホーム・ホーム・高柳「茅葺きの今を語る」

日 時 ● 1996年3月23日(土)～24日(日)午後1:00
場 所 ● 高柳町 門出かやぶきの里
内 容 ● 23日全体会/分科会:第一分科会「今後の茅葺きのくらしづくりを考える」第二分科会「茅葺き建築の技、茅葺場、初ワケを考える」24日/現地研修会:かやぶきの里、じよんのひ村主催:第1回全国茅葺き初ワケ・ホーム・ホーム実行委員会(0257-41-2233)

5 「それぞれの阿賀」展・流域市町村を只今、巡回中

ドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」の制作に携わってきた私たちは、母なる大河であった阿賀野川の再生を願って、県内外16人の写真家による写真展を「それぞれの阿賀」展と題して企画いたしました。ご承知のように新潟水俣病事件は公表から30年を経て、ようやく一応の決着をみましたが、16人の写真家は阿賀野川の自然、暮らし、そして水俣病と「それぞれの阿賀」をもって私たちにあらためて「母なる大河」再考の場を提供してくれています。昨年の暮れに開催された県都での大成功の後、1月14日からスタートした流域巡回展では新たに結成された各地の実行委員会を中心に教育委員会や公民館、そして阿賀野川工事事務所などの後援を得て、地元で活躍している写真家や画家の参加協力もあって、より充実した内容で現在進行中です。



津川町役場展示ホール

今後の予定

3/11(月)	9:00～17:00	横越村役場一階ロビー(横越村横越4710)
～15(金)	10:00～16:00	電話025-385-2111
3/16(土)	13:00～20:00	新潟市松浜北地区公民館(新潟市松浜1-7-1)
～17(日)	10:00～16:00	電話025-259-7330
プレ展示会		
3/5(火)～15(金)	9:00～15:00	新潟市松浜・第四銀行松浜支店ロビー
3/19(火)	10:00～20:00	五泉市図書館(五泉市郷屋川1-1-8)
～24(日)	10:00～16:00	電話025-385-2111
3/23(土)	13:30～15:00	対談「阿賀に生きる」から 「それぞれの阿賀へ」(佐藤 真×旗野秀人)
	15:00～17:00	「阿賀に生きる」上映会
	18:00～20:00	交流会(会場未定)
		五泉市図書館(五泉市郷屋川1-1-8) 電話025-385-2111

- ◆主催:「それぞれの阿賀」流域巡回展実行委員会
- ◆後援:建設省阿賀野川工事事務所・新潟県・新潟県教育委員会・各市町村教育委員会・マスコミ各社
- ◆入場無料
- ◆問い合わせ・事務局 北蒲原郡安田町大字保田3210 旗野 秀人 電話030-649-8945

2 地球環境保全とNGO活動の役割についてのつどい

日 時 ● 1996年3月16日(土)午後1:00
場 所 ● 新潟県民会館 小ホール
内 容 ● 講演「地球環境にやさしい生き方」/実践活動紹介:新潟の水辺を考える会、新潟県消費者協会、新潟県ホテルの会、東北電力労組「緑の協力隊」主催:環境事業団、新日本環境協会(025-255-5511)

4 第6回越佐・ほいさ快議IN栃尾

日 時 ● 1996年3月9日(土) 午後12:30
場 所 ● 栃尾市市民会館(0258-52-2151)
内 容 ● 9日基調講演「世田谷づくりの裏面」が「初ワケ・ホーム・ホーム」/分科会/交流会 10日全体会議/実践研修 主催:地域づくり団体新潟県協議会他

書籍情報

1 川にきく 一水辺の防人たちの物語ー



著 者 ● 岡村 直樹 著
出 版 社 ● 創樹社(定価1,600円)
内 容 ● 全国の一級水系109のうち105水系を踏破した「川の旅人」岡村 直樹が、川歩きをなかで見つけた「川と人とのかわり」に「心に残る川」「思い出の川」「河川のありよう」など、31の河川について語る川と人と自然のこだわりエッセイ。

編集後記

昨年末に行われた国勢調査で新潟市は50万都市と報告された。新潟青年会議所では新交通体系を考え、METSという名で構想を出している。リニアメトロを中核にウォーターシャトルを組み合わせ、パークアンドライドで補強するプラン。字数不足で解説はできないが、夢を語ることはすばらしいことだ。川や船と言えば水辺の会、是非とも青年会議所の皆さんと話を重ねていきたいと思う。

新潟市の中心部を流れる信濃川の左岸には、やすらぎ堤という緩斜面堤防が整備され、市民の憩いの場が創出された。矢板の護岸をなくし人間が近寄りやすくなったため、水辺の利用頻度は格段に高まった。ただし、信濃川の川幅が狭まり景観が変わること、動植物にとって水際の作り方はもっと改善の余地があること、などが指摘されている。通船川やMETS同様に市民が気楽に参加できる風通しの良い議論の場が欲しいと思う。

編集鳥 高橋 正良

E-Mail:PDC01270@niftyserve.or.jpまたはmasayosi@on.rim.or.jp



パイ菓子の「やすらぎ堤」紹介文・イラスト募集中

●事務局 〒950 新潟市大学南1丁目7821-5 (株)グリーンシグマ内 Phone 025-263-2733 Fax 025-263-1134

●編集 〒950 新潟市河渡2-2-8 (株)サザンウインド内 Phone 025-271-7515 Fax 025-271-1884